

一般的等価性とは 別様の仕方

私たちはコミュニズムの立ち上げに常に参画している

森元斎

恥ずかしながら、ナンシーの本を読み通せた記憶がない。難解なのだ。翻訳のせいだと思つて、原典にあたつたことがある。それでも、ある程度ナンシーの言葉遣いに慣れていなかったら、こりゃ到底歯が立たん、と思ひ、諦め

▼ジャン・リュック・ナンシー『黄渡名書再訳「破局」の後に』破局・技術・民主主義 11・10刊 四六判 二〇〇頁 本体二四〇〇円・以文社



「破局の等価性」では、キタームが出てくる。「一般的等価性」である。端的に言つてしまえば、私たちが経験しつづける破局とは、私たちが与り知らぬ、そして私たちが手が届かないような、圧倒的な領域で交換され算出されてしまふことにある。自然と技術の区別がつかないことほもちろんであるが、そこには資本の力が結びついている。復興もおそらく金の力でねじふせるだろう。放射性物質の算出も勝手にねじふせるだろう。企業と国家は私たちが交換可能な「数」におとしめるだろう。そうした領域での、つまり私たちが圧倒的に離れてしまつた領域での交換や算出が「一般的等価性」である。むしろ、こうした等価性

「民主主義の実相」では、ナンシー独自の68年論が展開されている。しばしば68年の思想は非人間主義（ないし反人間主義）に依拠して語られる。しかしナンシーは、リュック・フェリーやアラン・ルノーに依拠しながら、つまり反人間主義を批判する文脈に

「破局の等価性」では、キタームが出てくる。「一般的等価性」である。端的に言つてしまえば、私たちが経験しつづける破局とは、私たちが与り知らぬ、そして私たちが手が届かないような、圧倒的な領域で交換され算出されてしまふことにある。自然と技術の区別がつかないことほもちろんであるが、そこには資本の力が結びついている。復興もおそらく金の力でねじふせるだろう。放射性物質の算出も勝手にねじふせるだろう。企業と国家は私たちが交換可能な「数」におとしめるだろう。そうした領域での、つまり私たちが圧倒的に離れてしまつた領域での交換や算出が「一般的等価性」である。むしろ、こうした等価性

「破局の等価性」では、キタームが出てくる。「一般的等価性」である。端的に言つてしまえば、私たちが経験しつづける破局とは、私たちが与り知らぬ、そして私たちが手が届かないような、圧倒的な領域で交換され算出されてしまふことにある。自然と技術の区別がつかないことほもちろんであるが、そこには資本の力が結びついている。復興もおそらく金の力でねじふせるだろう。放射性物質の算出も勝手にねじふせるだろう。企業と国家は私たちが交換可能な「数」におとしめるだろう。そうした領域での、つまり私たちが圧倒的に離れてしまつた領域での交換や算出が「一般的等価性」である。むしろ、こうした等価性

「破局の等価性」では、キタームが出てくる。「一般的等価性」である。端的に言つてしまえば、私たちが経験しつづける破局とは、私たちが与り知らぬ、そして私たちが手が届かないような、圧倒的な領域で交換され算出されてしまふことにある。自然と技術の区別がつかないことほもちろんであるが、そこには資本の力が結びついている。復興もおそらく金の力でねじふせるだろう。放射性物質の算出も勝手にねじふせるだろう。企業と国家は私たちが交換可能な「数」におとしめるだろう。そうした領域での、つまり私たちが圧倒的に離れてしまつた領域での交換や算出が「一般的等価性」である。むしろ、こうした等価性

「破局の等価性」では、キタームが出てくる。「一般的等価性」である。端的に言つてしまえば、私たちが経験しつづける破局とは、私たちが与り知らぬ、そして私たちが手が届かないような、圧倒的な領域で交換され算出されてしまふことにある。自然と技術の区別がつかないことほもちろんであるが、そこには資本の力が結びついている。復興もおそらく金の力でねじふせるだろう。放射性物質の算出も勝手にねじふせるだろう。企業と国家は私たちが交換可能な「数」におとしめるだろう。そうした領域での、つまり私たちが圧倒的に離れてしまつた領域での交換や算出が「一般的等価性」である。むしろ、こうした等価性

「図書新聞」

2013. 1/19 (土)